

四半期報告書

(第118期第2四半期)

自 平成24年7月1日
至 平成24年9月30日

わかもと製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 2

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 3
- 2 経営上の重要な契約等 3
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 5
- (2) 新株予約権等の状況 5
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 5
- (4) ライツプランの内容 5
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 5
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 7

2 役員の状況 7

第4 経理の状況 8

1 四半期財務諸表

- (1) 四半期貸借対照表 9
- (2) 四半期損益計算書 11
- (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 12

2 その他 17

第二部 提出会社の保証会社等の情報 18

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第118期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	わかもと製薬株式会社
【英訳名】	WAKAMOTO PHARMACEUTICAL CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 神谷 信行
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号
【電話番号】	(03) 3279-0371（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目1番6号
【電話番号】	(03) 3279-0371
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第117期 第2四半期連結 累計期間	第118期 第2四半期 累計期間	第117期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高（千円）	4,737,431	4,719,763	9,412,339
経常損失（△）（千円）	△218,772	△240,935	△247,841
四半期（当期）純損失（△）（千円）	△121,164	△241,468	△122,327
持分法を適用した場合の投資利益（千円）	—	—	—
資本金（千円）	—	3,395,887	3,395,887
発行済株式総数（千株）	—	34,838	34,838
純資産額（千円）	12,139,529	11,925,244	12,102,470
総資産額（千円）	17,262,697	16,695,048	16,849,646
1株当たり四半期（当期）純損失（△）（円）	△3.48	△6.94	△3.52
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	70.32	71.43	71.83
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	126,692	543,438	—
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△422,190	△214,278	—
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	300,075	△98,775	—
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（千円）	1,592,519	2,100,479	—

回次	第117期 第2四半期連結 会計期間	第118期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純損失(△) (円)	△1.64	△4.89

- (注) 1. 当社は、平成23年5月1日付で連結子会社であった信栄株式会社を吸収合併したことに伴い、第118期第1四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成していません。そのため、第117期第2四半期連結累計期間は連結経営指標等を、第118期第2四半期累計期間及び第117期は提出会社個別の経理指標等を記載しております。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、潜在株式が存在していないため記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間における医薬品業界は、引き続き医療費抑制策の基調は変わらず、また、一般用医薬品市場も低迷が続いており、厳しい環境下で推移いたしました。

そのなかにあって当社グループの医薬事業では、主力製品である「ジクロード点眼液0.1%」、「リズモンTG点眼液」、「ゼベリン点眼液0.1%」等の点眼剤、緑内障・高眼圧症治療点眼後発薬「ラタノプロスト点眼液0.005%わかもと」・「ラタノプロスト点眼液0.005%NP」、眼科手術補助剤「マキュエイド硝子体内注用40mg」、眼科用アデノウイルス抗原検出キット「キャピリア アデノ アイ Neo」、広範囲抗菌剤「レボフロキサシン点眼液0.5%わかもと」の販売促進に加え、角結膜上皮障害治療剤「ヒアルロン酸Na点眼液0.1%わかもと」、共同販売医家向けサプリメント「オキュバイト」シリーズ等を発売し、普及活動に注力いたしました。

薬粧事業では、主力製品である「強力わかもと」に加え、薬用歯磨き（医薬部外品）「アバンビーズ」シリーズとして、「アバンビーズ シトラスミント味」「アバンビーズ ラ・フランスミント味」「アバンビーズ ワイルドミント味」「アバンビーズ ダンプランシュ」「アバンビーズ コーラルε（イプシロン）」の5製品を昨年3月にリニューアル発売いたしました。

特販事業では、国内向けに医薬品原料の販売と他社受託品を、海外向けに「わかもと」、乳酸菌および点眼剤の製造販売に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は47億1千9百万円、営業損失3億2千2百万円、経常損失は2億4千万円、四半期純損失は2億4千1百万円となりました。

なお、当社は第118期第1四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、前第2四半期累計期間との対比は記載しておりません。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

医薬事業では、「ジクロード点眼液0.1%」、「リズモンTG点眼液」が減少いたしました。新発売の眼科領域製剤、点眼剤が売上に寄与し、「ゼベリン点眼液0.1%」が増加いたしました。その結果、売上高は28億2千4百万円となりました。

薬粧事業では、主力製品の「強力わかもと」・「アバンビーズ」シリーズの売上減少の結果、売上高は9億3千4百万円となりました。

特販事業では、国内向け他社受託品及び海外向け点眼剤が減少いたしました。輸出用の「わかもと」が増加いたしました。その結果、売上高は9億5千4百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末から2億3千万円増加し、21億円となりました。その内容の主なものは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動により増加した資金は5億4千3百万円となりました。

この主な要因は、非資金支出項目である減価償却費が3億8千6百万円、投資有価証券評価損が1億5千8百万円、たな卸資産の減少が1億5千万円あった一方、税金等調整前四半期純損失が2億6千3百万円、役員退職慰労引当金の減少が1億3千6百万円あったためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動により減少した資金は2億1千4百万円となりました。

この主な要因は、有形固定資産（相模大井工場の設備及び室町東地区再開発等）の取得による支出が2億8千万円あったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動により減少した資金は9千8百万円となりました。

この主な要因は、長期借入金の返済による支出が9千8百万円あったためであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社グループが対応すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は3億5千1百万円であります。なお、当第2四半期累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,838,325	34,838,325	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は1,000株であ ります。
計	34,838,325	34,838,325	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	34,838,325	—	3,395,887	—	2,675,826

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
キッセイ薬品工業株式会社	長野県松本市芳野19番48号	3,778	10.84
株式会社ブレストシーブ	大阪府茨木市西駅前町5番10号	2,500	7.17
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6番1号	1,720	4.93
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿1丁目26番1	1,690	4.85
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1番2号	1,322	3.79
日本ゼトック株式会社	東京都千代田区九段南2丁目3番26号	1,201	3.44
アクサ生命保険株式会社	東京都港区白金1丁目17番3号	1,128	3.23
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1丁目1番5号	1,093	3.13
大正製薬ホールディングス株式会 社	東京都豊島区高田3丁目24番1号	1,000	2.87
新菱冷熱工業株式会社	東京都新宿区四谷2丁目4番地	750	2.15
計	—	16,182	46.45

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 47,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 34,216,000	34,216	—
単元未満株式	普通株式 575,325	—	—
発行済株式総数	34,838,325	—	—
総株主の議決権	—	34,216	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株 (議決権の数3個) 含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
わかもと製薬株式会社	中央区日本橋本町二丁目1番6号	47,000	—	47,000	0.13
計	—	47,000	—	47,000	0.13

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。なお、前第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）は四半期財務諸表を作成していないため、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書に係る比較情報は記載しておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、京橋監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金の項目から見て、当社グループの財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,464,392	1,694,623
受取手形及び売掛金	※ 3,563,872	※ 3,471,191
有価証券	405,702	405,855
商品及び製品	1,410,438	1,341,519
仕掛品	399,005	348,299
原材料及び貯蔵品	505,329	474,557
未収還付法人税等	2,809	—
繰延税金資産	407,517	381,699
その他	146,761	213,114
流動資産合計	8,305,831	8,330,860
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,609,248	6,648,499
減価償却累計額	△3,525,098	△3,658,262
建物（純額）	3,084,150	2,990,236
構築物	266,971	280,443
減価償却累計額	△175,186	△183,569
構築物（純額）	91,785	96,874
機械及び装置	7,101,525	7,168,982
減価償却累計額	△5,767,726	△5,979,583
機械及び装置（純額）	1,333,798	1,189,398
車両運搬具	38,746	39,376
減価償却累計額	△33,341	△34,863
車両運搬具（純額）	5,405	4,513
工具、器具及び備品	777,620	805,635
減価償却累計額	△705,622	△719,504
工具、器具及び備品（純額）	71,998	86,130
土地	357,583	357,583
建設仮勘定	57,512	207,258
有形固定資産合計	5,002,234	4,931,996
無形固定資産		
特許実施権	300,000	300,000
借地権	51,277	51,277
ソフトウェア	50,717	68,491
その他	6,043	5,993
無形固定資産合計	408,038	425,761
投資その他の資産		
投資有価証券	1,649,897	1,595,358

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
保険積立金	800,214	702,321
関係会社出資金	1,777	1,777
繰延税金資産	602,927	621,762
その他	78,726	85,210
投資その他の資産合計	3,133,543	3,006,429
固定資産合計	8,543,815	8,364,187
資産合計	16,849,646	16,695,048
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 830,488	※ 892,692
短期借入金	296,000	308,000
未払法人税等	30,065	19,014
未払消費税等	—	18,910
賞与引当金	192,600	197,500
返品調整引当金	10,000	12,000
その他	574,788	772,025
流動負債合計	1,933,942	2,220,142
固定負債		
退職給付引当金	1,330,743	1,315,564
役員退職慰労引当金	145,900	9,600
長期借入金	1,334,000	1,224,000
その他	2,590	497
固定負債合計	2,813,233	2,549,661
負債合計	4,747,176	4,769,803
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,395,887	3,395,887
資本剰余金	2,675,826	2,675,826
利益剰余金	5,902,075	5,660,366
自己株式	△13,558	△13,658
株主資本合計	11,960,229	11,718,421
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	142,241	206,823
評価・換算差額等合計	142,241	206,823
純資産合計	12,102,470	11,925,244
負債純資産合計	16,849,646	16,695,048

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	4,719,763
売上原価	2,357,159
売上総利益	2,362,603
販売費及び一般管理費	* 2,685,317
営業損失(△)	△322,713
営業外収益	
受取利息	309
受取配当金	19,118
受取地代家賃	12,534
受取技術料	66,749
その他	37,406
営業外収益合計	136,118
営業外費用	
支払利息	14,105
固定資産除却損	700
寄付金	12,497
その他	27,036
営業外費用合計	54,340
経常損失(△)	△240,935
特別利益	
役員退職慰労引当金戻入額	136,300
特別利益合計	136,300
特別損失	
投資有価証券評価損	158,622
特別損失合計	158,622
税引前四半期純損失(△)	△263,257
法人税、住民税及び事業税	9,000
法人税等調整額	△30,789
法人税等合計	△21,789
四半期純損失(△)	△241,468

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失(△)	△263,257
減価償却費	386,366
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△15,179
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,900
受取利息及び受取配当金	△19,427
支払利息	14,105
有形固定資産除却損	700
投資有価証券評価損益(△は益)	158,622
売上債権の増減額(△は増加)	92,681
たな卸資産の増減額(△は増加)	150,397
仕入債務の増減額(△は減少)	73,193
未払消費税等の増減額(△は減少)	18,910
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△136,300
その他	87,302
小計	553,016
利息及び配当金の受取額	19,427
利息の支払額	△14,347
法人税等の還付額	4,487
法人税等の支払額	△19,145
営業活動によるキャッシュ・フロー	543,438
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△280,027
無形固定資産の取得による支出	△26,071
投資有価証券の取得による支出	△1,728
投資その他の資産の増減額(△は増加)	93,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△214,278
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△98,000
自己株式の処分による収入	517
自己株式の取得による支出	△856
配当金の支払額	△436
財務活動によるキャッシュ・フロー	△98,775
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	230,384
現金及び現金同等物の期首残高	1,870,094
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,100,479

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる影響は軽微であります。

【追加情報】

①大阪支店

平成24年4月10日付で大阪支店の土地譲渡契約を締結し、平成25年1月末日を引渡予定日としております。譲渡価格は161,000千円、当該土地の帳簿価額は16,031千円であります。

②鎌田土地及びシンエイハイツ（賃貸アパート）

平成24年9月28日付で世田谷区鎌田の借地権及び建物の譲渡契約を締結し、平成25年2月末日を引渡予定日としております。譲渡価格は280,000千円、当該帳簿価額は64,811千円であります。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<p>※期末日満期手形</p> <p>期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。</p> <p>受取手形 10,566千円 支払手形 8,908千円</p>	<p>※四半期会計期間末日満期手形</p> <p>四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。</p> <p>受取手形 4,464千円 支払手形 31,325千円</p>

(四半期損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
発送費	63,047千円
広告宣伝費	128,097
販売促進費	456,164
給料手当及び賞与	817,481
退職給付引当金繰入額	78,922
福利厚生費	119,693
賃借料	45,047
減価償却費	20,805
旅費及び交通費	129,571
研究開発費	351,417

賞与引当金繰入額は給料手当及び賞与に含めて表示しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	1,694,623千円
預金期間が3ヵ月を超える定期預金	-
有価証券勘定	405,855
現金及び現金同等物	2,100,479

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当に関する事項

無配のため記載すべき事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 損益計算 書計上額 (注)2
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,824,082	934,739	954,326	4,713,147	6,615	4,719,763	—	4,719,763
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,824,082	934,739	954,326	4,713,147	6,615	4,719,763	—	4,719,763
セグメント利益又は 損失(△)(注)3	△245,148	△99,323	22,538	△321,934	△779	△322,713	—	△322,713

(注)1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

3. 法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。これによる、セグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	6円94銭
(算定上の基礎)	
四半期純損失金額(千円)	△241,468
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	△241,468
普通株式の期中平均株式数(千株)	34,791

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

わかもと製薬株式会社

取締役会 御中

京橋監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小宮山 司 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 下村 久幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているわかもと製薬株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第118期事業年度の第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、わかもと製薬株式会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。